

音楽アーティスト科 ベースコース 受講科目一覧 2年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養Ⅱ	74	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅱ	74	2	4
講義	音楽史Ⅱ	74	2	4
講義	作曲編曲Ⅱ	74	2	4
実習	作品制作	148	4	4
実習	分野別実習Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	74	2	2
実習	サウンドアナライズⅡ	74	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅱ	74	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅱ	74	2	4
合計		888	24	36

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	分野別ゼミ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
主にパフォーミングアートの歴史(音楽史、演劇史、芸能史、身体表現の歴史)を通してこれらの体系を理解することでアーティストとしての自らの在り方を探ると同時に、哲学などを学びながらそれらのエッセンスを加味することによりそれぞれの美学に立脚した活動を促す。					
到達目標					
オリジナルパフォーマンス、オリジナルアンサンブル、セッションワークなどの様々なパフォーミングアートの理論を通してそれらコンテンツの基本構造を理解し、実際の表現学習の類型を体系的に捉えることにより知識量を飛躍的に向上させます。 またプロフェッショナルへの入り口として技や演出力のレベルを上げ、実際のショービジネスの世界で通用しうるかのシビアな目線によって、より高度な表現方法への造詣を深め、且つ表現者としてそれらを体得していく。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	エンタテインメント作品とは歴史や人間性など人生哲学がダイレクトに投影されるという視点から様々な先人の類型を紐解きながらアーティストとしての生き様を討議などを交えて考え出していく。
【前期】 5～8回目	音楽の起源から中世・ルネッサンス、バロック、典派、ロマン、近代・現代の音楽と作曲家、また現代ポピュラーミュージックへ多大な影響を与えたアメリカンルーツミュージックの体系・系譜を学びそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 9～12回目	日本の音楽史の中でポイントとなる雅楽、声明、琵琶楽、能、文楽、歌舞伎、地歌、箏曲、尺八などの演奏、発声、ステージシステムなどを体系的に理解しそれらが現代音楽へ与える影響を推察する。
【前期】 13～16回目	身体表現の歴史では舞踏やダンスは様々なスタイルの累積により進化し、過去から現代へと融合し、新たなムーブメントが生まれ出される。そのルーツやスタイルの系譜を見ながらそれぞれの表現の成り立ちを推察する。
【前期】 17～19回目	演劇の起源、古代ギリシア、宗教との関わり、シェイクスピアなどの劇作家の登場、貴族、大衆文化による発展など西洋演劇史と日本の古代から中世にかけての伎楽、猿楽、田楽、能、狂言など、また近世の歌舞伎、人形浄瑠璃などの在り方を学ぶ。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	近世の歌舞伎役者から戦前戦後のテレビ、漫才、落語、コント、ドラマ、時代劇、マジック、ラジオなど大衆文化の担い手となったコンテンツが何故、人気を博したかの推察を行う。また、芸能事務所、エージェントなどの担った役割も解説する。
【後期】 24～27回目	デジタル技術やインターネットの普及によって、パフォーマンス側が自らのイベント情報を発信し、直接オーディエンスやユーザーと繋がり、ダイレクトにビジネスを行なうことが可能な時代において自らが自分という商品のブランドを高め、且つビジネスの知識、業界の仕組みを知らないとセルフプロデュースを試みられないことから現代におけるプロデュース論を学習する。
【後期】 28～31回目	コンサートの企画・立案から運営まで、またステージにおける音響、照明、テック、ローディー、舞台監督など技術系スタッフの動きや役割などの全般理解を行い、多角的な視点でイベント運営を見つめられるようにする。
【後期】 32～35回目	民族交流や伝播による世界各地の思想・宗教・文学・歴史・民俗・美術・音楽などの発生を知ると同時に、新たな地域文化が生まれる際のメカニズムなどを推察していく。
【後期】 36～37回目	ビジネススキルとして対人関係、主にコミュニケーション、会話、交渉、プレゼンスキル、コーチングなど、また自己管理としてスケジュール、目標、タスク管理術を理解させ、一社会人として業界で活躍できるようにこれらの有効性を学習させる。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	インプロヴィゼーション理論		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2004年よりアーティスト活動開始。JUON, MACO, TOC等様々なアーティスト音源のレコーディング参加。 ・Othello, The Baker Brothers, US3等様々なアーティストとの共演。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「即興演奏の技術・知識等」の指導を行う。				
授業概要					
世界の様々な曲を演奏し、即興演奏に挑戦する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト別に取り上げるスケールやグルーヴ、リズムなどをベースに様々な理論やエクササイズ、パターンを通してフレーズやアイデアを発想できるようにする。 ・どのジャンルの曲でも現場で対応できるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲①、②スラップベース32分音符を感じて弾く。はねたパターン、16分音符を意識して弾く。
【前期】 5～8回目	課題曲③、④はねたパターン、16分音符をからだに入れて弾く。ユニゾン、はねたパターンを試す。
【前期】 9～12回目	課題曲⑤、⑥6連符、キメ、ナチュラルサイクルをからだに入れて弾く。コード弾き、ダブルストップに挑戦。
【前期】 13～16回目	課題曲⑦シンプルなコードなのでグルーヴ重視できれいなラインを弾こう。Live Week テストレビュー 前期テスト
【前期】 17～19回目	前期まとめ ■前期試験：課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲⑧、課題曲⑨ベースメロディーとガラッと違うアプローチをする。ドラムとの位置関係、ジャストを狙って弾く。
【後期】 24～27回目	課題曲⑩、課題曲⑪マイナー、ナインスをうまく使ってアプローチをする。HIPHOPビートをからだに入れてキレのあるスラップを弾こう。
【後期】 28～31回目	課題曲⑫、課題曲⑬定番コード進行で様々なアプローチをする。ギター、ドラムとのユニゾン決めよう。。16分音符をからだに入れて弾こう。
【後期】 32～35回目	課題曲⑭ファンキーなビート、ゴーストノート、スラップを巧みに弾こう。
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験：課題曲の演奏により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 即興力 / サウンドバランス」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	世界の様々なリズム、グルーヴに着目し、バンド単位でこれらのスタイルをマスターできるようになりましょう。 バンドのテンポキープやサウンドコントロールにも磨きをかけるよう心がけましょう。□
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループの歴史と体系Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・1991年よりアーティスト活動開始。姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン上記の経歴を活かし、職業として求められる「音楽史、音楽理論等」の指導を行う。				
授業概要					
様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグルーブを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 5～8回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 9～12回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 13～16回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 17～19回目	【課題:8】【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2.4拍を意識し、リズムカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 24～27回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 28～31回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 32～35回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アドバンスドベース		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	作曲編曲Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『sancrrib(サンクリブ)』では楽曲のアレンジを担当。 制作した楽曲はNHK-FM『ミュージックライン』EDテーマ、Youtube『つぶらちゃんネル。』EDテーマ等に起用される。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論力等」の指導を行う。				
授業概要					
プロフェッショナルを目指すうえで必須となる難易度の高いテクニックや奏法を段階的に押し上げ、高度なフレーズに対応できる能力を培います。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽をするうえで欠かせないワンランク上のテクニックを身につける。 ・世界の様々な楽曲を演奏できるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Pops Bass ・シンプルなコード進行で様々なアプローチを試みる
【前期】 5～8回目	Funk Bass ・ラリーグラハム風スラップスタイル、ロックプレスティア風パームミュートに挑戦
【前期】 9～12回目	R&B Bass ・バーダンホワイト風フィンガースタイル、ダイナミクスのつけ方に挑戦
【前期】 13～16回目	Hard Rock Bass ・ビリーシーン風3フィンガー、マイナーペンタニックを使ったユニゾンフレーズに挑戦
【前期】 17～19回目	Blues Bass ・ブルース進行でのラインの作り方、タメを意識して弾いてみる ■前期試験: 課題曲の演奏により「テクニック / リズム / サウンド」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Slap Bass ・サムピングアップダウン、ロータリー奏法、ダブルプルに挑戦
【後期】 24～27回目	Jazz Bass ・4ビート中のゴーストノートの入れ方、ソロに挑戦
【後期】 28～31回目	Latin Bass ・2. 2. 3. 2. に慣れてみよう。クラーベの法則を学ぶ
【後期】 32～35回目	Marcus Bass ・マーカスマラーのフレーズの中で難易度の高い32分音符に挑戦
【後期】 36～37回目	Session Time ・講師といろんなキーでセッションの挑戦 ■後期試験: 課題曲の演奏により「テクニック / リズム / サウンド」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「テクニック / リズム / サウンド」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワンランク上のテクニックを身につけることでぐっと表現の幅が広がります。自由に音楽を楽しめるように挑戦しよう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオワーク		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	作品制作	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギターヴォーカル/ギター/ベース/ドラム				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『sancrrib(サンクリブ)』では楽曲のアレンジを担当。 制作した楽曲はNHK-FM『ミュージックライン』EDテーマ、Youtube『つぶらちゃんネル』EDテーマ等に起用される。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論力等」の指導を行う。				
授業概要					
基礎課程で積み上げてきた知識、技能の総体としてクリエイティブな応用実践で音楽やパフォーマンス作品を作り上げていきます。また、グループプロジェクトとして企画、打合せ、譜面制作、リハーサル、レコーディング、ステージ本番に至るスケジューリングを行い、構成員の考えや芸術観などお互いにコネクトしながらより良い制作の方法を考えることにも重点を置きます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・エンターテインメントの基本構造の理解、表現学習、作品制作、ステージ発表などを習得のサイクルとし、徐々に表現レベルを上げていきます。 ・メンバー全員でひとつのプロジェクトを作ることを経験し、今後の活動に生かすことが出来るようにし、且つクオリティーの高い楽曲制作と演奏が出来るようにシミュレーションを重ねます。 ・自身のポテンシャルを高めて、将来的な可能性の幅を広げることが可能になります。 ・チームワーク、協調性を養います。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	決められたメンバーと協力し合い、ひとつのプロジェクトを作り、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【前期】 9～16回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【前期】 17～24回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【前期】 25～32回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【前期】 33～38回目	前期の授業で制作してきた作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■前期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	後期はより高度なプロジェクトコンセプトをグループごとに思考し、ライブ演奏、レコーディングに向けた企画とスケジューリングを行う。構成員の発想を集約し方向性の確認も行う。
【後期】 47～54回目	イベントプロジェクトの企画案に従い、オリジナルの抽出、楽曲の選定、またアレンジの振り分けなど個々の特性と将来像に応じて構成員の役割を決定していく。
【後期】 55～62回目	オリジナルナンバーのコンセプトやアレンジを確認しあい、演奏や歌唱を行いながら修正点を抽出していきます。また活発な意見の発議でそれぞれの考えを確認する。
【後期】 63～70回目	楽曲演出や演奏の完成度を上げるためにグループとしての実力を指導すると同時に個々へ与えられた課題を確実にクリアし、プロジェクトに反映させていく。
【後期】 71～74回目	後期の授業で制作した作品の総仕上げ～ステージ発表またはレコーディングを行い形に残す。 ■後期試験：作品の発表により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「クオリティー/技術力/表現力/コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	一作品をグループで作りに上げるプロセスの中で生じる葛藤や苦悩という生みの苦しみを経験しながら、作品完成時に感じる達成感や喜びを授業を通してシミュレーションしておきましょう。また基礎課程で培ったパーツを組み合わせる応用課程のクリエイティビティも存分に発揮してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プレイングテクニックⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	<p>・1991年よりアーティスト活動開始。姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン。</p> <p>上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、編曲の技術と知識」の指導を行う。</p>				
授業概要					
演奏に際してかならず必要になる「○○らしさ」様々なジャンルの中でのベースのアプローチを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に様々な楽曲を研究してグルーブ感、音使いの傾向などを学ぶ。 ・頻出のジャンルに関して自分なりのベースラインを作れるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	耳コピーで音を探す。聞き取れない音は理論その他を使って想像する。
【前期】 5～8回目	Primary Grooveとしてのロックスタイル、ファンク、レゲエ ラテン、ボッサ、サンバ
【前期】 9～12回目	ジャズのバックイング ツービート フォービート
【前期】 13～16回目	ジャズのセッションにおける約束ごと
【前期】 17～19回目	ベースソロ ツーフリンガーとスラップ ■前期試験：課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Primary Groove ゴスペル ラテンジャズ
【後期】 24～27回目	ジャズスタンダードのバックイング
【後期】 28～31回目	ジャズスタンダードのコード進行を使つての解析及びアドリブソロ
【後期】 32～35回目	和音を多用したバックイング ボーカルサポートに関する考え方
【後期】 36～37回目	セッションに頻出の楽曲 良くあるアレンジとアプローチ ■後期試験：課題曲の演奏により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏力/理解力/オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の力を信じて思い切りチャレンジしてください。失敗を恐れずに。楽器を弾いた時間だけ音楽も応えてくれるはずですよ。
備考	使用教科書「プレイングテクニック2」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	フレットボード&スケールⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	自身のオリジナルバンド『sancrib(サンクリブ)』では楽曲のアレンジを担当。 制作した楽曲はNHK-FM『ミュージックライン』EDテーマ、Youtube『つぶらちゃんネル』EDテーマ等に起用される。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、音楽理論力等」の指導を行う。				
授業概要					
フレットボード上の音階を全て可視化するために、スケールやインターバルなどの指板上の情報、さらに熟練度を高めるためのエクササイズを学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身がどのポジション、どのフレットを押さえればその音になるか視覚的に理解する。 ・自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるようにする。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	Unit6 ダイアトニックなコード進行でアルペジオ演奏、2つのキーを含むコード進行を演奏。
【前期】 5～8回目	Unit7 ノンダイアトニックを含むコード進行、モーダル・インターチェンジ、セカンダリードミナントを演奏。
【前期】 9～12回目	Unit8 スケールとコード、ドミナント7th、コードに対するその他のスケールを演奏。
【前期】 13～16回目	Unit9 フレットボードのアクセス、2オクターブのエクササイズ、2オクターブのスケールを演奏。
【前期】 17～19回目	フレットボードテキスト復習。 ■前期試験：課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	Marcus Millerから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Dave Grusin ・David Sanbornを演奏。
【後期】 24～27回目	Will Leeから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Smooies ・Diane Sehuurを演奏。
【後期】 28～31回目	Nathan Eastから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Fourplay ・Eric Claptonを演奏。
【後期】 32～35回目	Anthony Jacksonから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Lee Ritenour ・Chaka Khan ・Michel Petruccianjを演奏。
【後期】 36～37回目	Jaco Pastriusから学ぶフレットボードスケール。ソロ名義・Jani Mitichellを演奏。 ■後期試験：課題曲の演奏により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「スケールの理解 / コード進行の理解 / リズム」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	フレットボードスケールというと、難しいイメージを持つかもしれませんが、冷静に学ぶと理解できると思います。自分の内側に鳴っているサウンドを自由自在に表現できるベーシストになりましょう。
備考	使用教科書「フレットボードテキスト」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループアンサンブル実習Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	・1991年よりアーティスト活動開始。姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。				
授業概要					
様々なジャンルの楽曲に触れる事でそのエッセンスを取り入れ、ベーシストとしてのポテンシャルを高めます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・どんな現場でも対応できる柔軟な力を身につける。 ・名曲に触れ、実際に演奏することで音楽の幅を広げる。 ・楽曲のグルーブを感じそれに応じたリズム、音価などを操り表現する。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【課題曲:1】楽曲の勢い活かした演奏に心がける。Bメロのフレーズで躓かないようにする。【課題曲:2】ミュートを掛けつつアタックをしっかりと出す。一定のノリを保つ事。【課題曲:3】シャッフルのハネ具合を分析し、適したピッキングを選択する。
【前期】 5～8回目	【課題曲:3】頭抜きのフレーズ。ドッシリ且つメロウなラインを弾く。【課題曲:4】ナチュラルサイクルを意識し、ロストする事を防ぐ。【課題曲:5】リズムチェンジになれる。ユニゾンフレーズに注意する。
【前期】 9～12回目	【課題曲:6】最後の8小節に気を付ける。ジャコ特有のサウンド、フレージングの研究。【課題曲:7】ゴーストノートを駆使したフレージングに心がける。
【前期】 13～16回目	【課題:8】セクション毎の変化を意識した演奏をする。
【前期】 17～19回目	【課題:8】【課題曲:9】変拍子になれる。ラインを歌う。【課題曲:10】ユニゾンフレーズに気をつけ、躍らせるベースを弾く。 ■前期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【課題曲:11】【課題曲:12】リズムの変化になれる。セクション毎に緩急をつける。【課題曲:13】2,4拍を意識し、リズムカル且つ優しく伸びのある演奏に心がける。
【後期】 24～27回目	【課題曲:14】【課題曲:15】緩やかなダイナミクスをつける。
【後期】 28～31回目	【課題曲:16】どっしりとしたシャッフルを心がける。キメを大切に。
【後期】 32～35回目	【課題曲:17】楽曲の雰囲気ノリを再現する。メロディを歌いながら弾く。【課題曲:18】ユニゾンフレーズは歌えるまで体に叩き込む。
【後期】 36～37回目	年間まとめ ■後期試験:課題曲の演奏により「リズム / 分析力 / 再現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / 分析力 / 再現力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	将来演奏することの多く勉強になる曲ばかりなので何度も聴いて、弾いて自分のものにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習Ⅱ①		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	・1991年よりアーティスト活動開始。姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なのかを体感する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーブを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 5～8回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 9～12回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 13～16回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 17～19回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験：課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲4 ファンキーなグルーブを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 24～27回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 28～31回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 32～35回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 36～37回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験：課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブ実習Ⅱ②		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ベース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■ 非該当 □
担当講師 実務経歴	・1991年よりアーティスト活動開始。姫野達也(TULIP)、小柳ルミ子等、メジャーアーティストのコンサート、レコーディング時のバックアップミュージシャン。 上記の経歴を活かし、職業として求められる「演奏技術、アンサンブル力等」の指導を行う。				
授業概要					
アンサンブルの中でのベースの役割。何が必要なのかを体感する。					
到達目標					
・自分たちでは選ばない様な課題曲を与えてどう演奏すれば良いかを考え表現することができる。 ・自分なりのアプローチで楽曲にどう参加するのかを考え表現することができる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲1 ギターとのユニゾンリフを弾きながら自己主張も。ヘヴィなグルーブを表現しながらタイトなベースラインを弾こう。
【前期】 5～8回目	課題曲2 ジャズ的アプローチ。エレベでどうアプローチすれば良いか、またジャズ独特のノリをどう表現するか。
【前期】 9～12回目	課題曲3 エイトビート系のバラード。一曲を通してのメリハリの作り方が最重要。
【前期】 13～16回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【前期】 17～19回目	前期課題曲の実演及び講師による評価 ■前期試験：課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲4 ファンキーなグルーブを前面に打ち出した曲、スラップとベースソロに挑戦
【後期】 24～27回目	課題曲5 ラテン要素をうまく取り込んで尚且つ独自のアプローチを目指そう。
【後期】 28～31回目	課題曲6 ゴスペルチックな雰囲気満載。ガンガンに盛り上げながらも冷静に周りの音を聞こう。
【後期】 32～35回目	ライブ向けのアレンジ、リハーサル
【後期】 36～37回目	後期課題曲の実演及び講師による評価 ■後期試験：課題曲の演奏により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演奏技術 / 表現力 / オリジナリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ベースが楽曲の中でどんな役割を持つのか、どう弾いたらどう変わるのかを考えながら弾いて学んでください。
備考	